



この号の内容

- 1 第1期予備教育履修生
-開講式
- 2 予備教育の概要
- 3 日本語プレ予備教育
- 4 リクルート活動-総括
- 5 7 Days in Taiwan
- 6 招へいプログラム
- 7 教員の着任・異動

第1期予備教育履修生 - 開講式

2018年10月からの予備教育開始に先立ち、9月27日に開講式を開催しました。第1期生3名に対し、北野教育担当理事と宮川（次期）国際高等教育院長から歓迎の挨拶の後、出席した予備教育を担当する先生方など4名のチューター（本学学生）から自己紹介と歓迎の意が表され、履修生それぞれからも自己紹介や抱負が述べられました。

開講式に引き続いて、オリエンテーションを実施し、これから約6月間にわたる日本語をはじめとした予備教育の時間割や内容などについて担当する先生方から説明されました。



【挨拶をする北野理事】



【長谷部教授の自己紹介・歓迎の様様】

予備教育の概要

**2018年10月から
Kyoto iUP
第1期生の予備教育が
スタートしました。**

予備教育は、3人の日本語の習熟度や母国と日本の高校のカリキュラムギャップなどを踏まえて、三者三様に編成しています。日本語は、初級と中級の場合 週10コマ（15時間）、上級以上の場合 週7コマ（10時間30分）を履修しています。科目は既存の日本語科目のほか、iUP 専用11コマを新設しています。

日本語以外は、経済学部志望の場合 数学1コマと社会2コマ、工学部志望の場合 数学と化学と物理をそれぞれ2コマ履修しています。社会は日本の経済や法制度など、これから経済学を学ぶ上で不可欠となる知識が習得できるよう新たに非常勤講師を採用し、独自に開発した内容としています。数学と化学と物理は日本の教科書をベースにカリキュラムギャップを確かめながら補っています。

週25コマのうち、13～16コマ、平均すると毎日3コマずつを履修するハードなスケジュールですが、みんな頑張っています。担当の教員いわく、いずれも各国のトップ層の学生なので飲み込みが早いとのこと。

日本語プレ予備教育

**日本語プレ予備教育
を実施しました。
(5月～9月)**

Kyoto iUP の最大の特徴は、従来の留学生の選抜とは異なり、入学段階では日本語能力を問わないこと、卒業段階では高度な日本語能力を身に付けることにあります。そのため、予備教育段階から継続した日本語教育を受け主に3回生からは学部専門科目を日本語で履修しますが、これに堪えられる日本語能力が備わるのかという不安は各学部で感じられているところです。このため、少しでも早い段階から日本語の勉強をはじめよう、来日前の2人について、ビザ取得～来日までの間を活用して日本語のプレ予備教育を実施することにしました。

現地の日本語教育機関に委託し、それぞれの日本語能力に応じた個別のカリキュラムを編成してマンツーマンでのトレーニングを78時間・日本語未修者は150時間実施しました。2人とも一生懸命取り組み、日本語能力資格に換算して1ランク程度向上して来日することになりました。

専門教育までの限られた時間で少しでも早く、かつ、マンツーマンのレッスンを始めることは効果的であり、今後も継続して実施していきます。

リクルート活動 - 総括

**9カ国・計47校で
リクルート活動を
展開しました。**

5月初旬にスタートした今期のリクルート活動も、出願期間を控え、11月下旬の香港とインドネシアへの派遣をもって完了となります。

今期(2019年)の選抜は、はじめて通常の募集・広報～出願・選抜のサイクルとなり、当初に、合格予定者(最大)15名程度に対し、優秀な合格者を得るために100名以上の有力な候補者の出願を目指しリクルート計画を策定して取り組んだ結果、9カ国【インドネシア・マレーシア・タイ・



【タイ- Mahidol Wittayanusorn School
での説明会の模様/約150名が参加】

ベトナム・ミャンマー・フィリピン・台湾・シンガポール・香港】に計17回のリクルートチームを派遣し、それぞれの国の最優秀層の高校47校で Kyoto iUP の説明と優秀な学生の応募をお願いする機会を得られました。校長や進路指導の先生にお話することに加え、留学に関心のある生徒の皆さんに直接説明したり、中には模擬授業を実施する機会も

いただき、大変有意義な活動が展開できたと実感しています。今期の出願に繋がることを期待しています。また、各国への派遣の際には、現地の日本大使館、日本学生支援機構や国際交流基金等の現地支所、現地の同窓会組織、国々の教育関係省庁などや留学支援業者などにも接触を重ね、関係



【フィリピン- Philippine Science High School の金教授の模擬授業】

構築と強化を図ってきました。こうした繋がりや関係構築は今後のプログラムの発展に寄与するもので、引き続き強化に努めていきます。

詳しい内容は別途リクルート活動記録でご紹介します。

7 Days in Taiwan

台湾は、本学との歴史的な繋がりが深くこれまでに多くの著名な卒業生を輩出しています。Kyoto iUP のリクルートも、台湾に戻って活躍している

本学同窓会を通じて最も活動が進展してきた国ですが、更に広報活動を強化して台湾における本学のプレゼンス向上を図るとともに、現地同窓会との関係をより一層強固なものとする、台北に加え、台中・台南・高雄地域へのリクルート活動を展開することを目的として、10月13日～19日まで「7 Days in Taiwan」を実施しました。具体的な内容は、



国際教育展の様相

↓ブース別説明会



①Kyoto iUP の留学フェアである国際教育展を開催(10/14)し、iUP の紹介や台湾出身の本学教員によるミニ講義に加えて、総合人間学部、教育学部、工学部、農学部の先生方にもご参加いただき、学部紹介とブース別相談会を実施しました。中高生やその保護者合わせて110名の参加があり大盛況となりました。

②台湾京都大学同窓会・台湾吉田会（台湾在住の卒業生の同窓会）と京都



大学の共催による同窓会（校友聯歡晚會）(10/15)を開催し、111名の参加を得て、盛会に終わりました。

同窓会集合写真（参加者多数のため2度に分けて撮影）

③リクルート活動は前述の一環と

なりますが、台北は従来訪問してきた4校との関係強化を、台中・台南・

高雄は各地域のトップ校との新たなネットワーク構築を目的に訪問し、校長や進路指導教員との意見交換を行いました。また、台南の2校を除く8校・約350名の学生に対してiUP説明会を実施しました。

招へいプログラム

リクルート活動の一環として、タイの2校を招へいしました。

11月5日～8日 タイの Mahidol Wittayanusorn School と Kamnoetvidya Science Academy (KVIS) 2校から副校長、進路指導教員など3名ずつを京都大学に招待しました。

このプログラムは、リクルートの重点対象国の有力高校の先生方に、本学の教育研究活動を見聞してもらい、充実した環境の下で留学生活ができることをご理解いただいて、それぞれの優秀な学生の本学への留学促進に繋げることを目的に、昨年度のインドネシア-SMAN8、SMAN78、フィリピン-Philippine Science High Schoolに続いて実施したものです。北野理事や宮川国際高等教育院長との会談のほか、桂キャンパス/工学部地球工学科構造物実験施設など、宇治キャンパス/防災研究所強震応答実験室



北野理事との会談の様
—時計台迎賓室にて—

など、北部構内/理学部表面化学研究室などや農学部果樹園芸学研究室などを見学し、皆さん高度な設備と内容に驚かれるとともに、学部で行っている学問分野への理解を深められました。帰国後にはそれぞれの優秀な学生に京都大学の良さを伝えていただけることと思います。こうした取組は、確実に有力高校と強固な連携協力の関係が構築されるもので、実施できる数には限りがあるものの今後も続けていきます。

教員の着任・異動

★H30.10.1 新任 吉田カレッジオフィス長 宮川 恒

★H30.10.1 採用 吉田カレッジオフィス 特定准教授 佐々木 幸 喜

これまで、京都大学、岡山大学で日本語・日本文化教育に携わってまいりました。これから、先生方、職員の皆さまのお仕事を学びつつ、これまで培った教育のノウハウを活かすことができるよう、真摯に職務に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



Kyoto iUP Newsletter

発行 京都大学国際高等教育院吉田カレッジオフィス

連絡先 吉田カレッジオフィス事務室

E-mail : Kyoto_iup@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

URL : <http://www.iup.kyoto-u.ac.jp/>

